



- 1 獅子舞に頭をかまれ泣きじゃくる子どもの姿は昔から変わらない祭りの名場面
- 2 楼門前に点火された今年の火文字は「承」。復興に向かう中で人吉らしさの継承を大切にするという意味が込められた
- 3 球磨神楽は3年ぶりに全17番の演目が奉納された
- 4 8頭の獅子が勢いよく駆け出す獅子の飛び出し
- 5 担ぎ手の威勢のいい声がまちなかに響く
- 6 JR人吉駅前では豪雨災害からの早期復興を祈願する復興祈願祭が行われた
- 7 神幸行列が無事に終わり、わっしょい三唱！
- 8 みこしを回転させるパフォーマンスを披露する球磨工高の生徒
- 9 復旧したばかりの禊橋で笑顔を見せる神幸行列の一行

祭りのメインである神幸行列は豪雨災害以降中止していましたが、今年はコースを縮小して3年ぶりに開催。多くの市民らが見物に訪れ、獅子やみこし、鼓笛隊の演奏などが市内中心部を練り歩くと、復興途上のまちはにぎわいとたくさんの笑顔であふれました。

国宝・青井阿蘇神社の例大祭「おくんち祭」が10月3日～11日に開催されました。初日の半纏おろしでは、みこしの奉納団体などが復旧工事を終えたばかりの禊橋を渡る様子を多くの人が見守りました。8日の球磨神楽奉納では、中高生やこの日のために帰省した大学生ら若い舞い手が躍動！

復興願い、心一つに おくんち祭

《フトリポート》

